世羅幸水農園　樹体ジョイント仕立てによる早期成園化

【平成 29 年3月 30 日掲載】

世羅町の農事組合法人　世羅幸水農園（組合長理事　原田修（はらだ　おさむ）：経営面積 64ha）では，早期成園化をねらった「日本梨の樹体ジョイント仕立て」の導入に取り組んでいます。

この栽培方法は 10a あたり通常 40 本を植え付けるところ，150 本以上の苗を植え付け，複数の木を接ぎ木で連結することにより，接ぎ木２年目から着果させることが可能となり，早期成園化を実現することで，改植時の収量低下を最小限にすることができます。また通常の栽培では密植すると樹勢のコントロールが難しく花芽の着生不良など悪影響が生じますが，この栽培方法では，樹ごとの生育が揃い，悪影響は生じません。さらに，摘果やせん定などの作業を直線状に進めることができるため大幅な省力化が実現可能であり，将来的には収穫作業のロボット化も含めた機械化の進展も見込まれています。

当法人の既存の園は，植栽後 50 年を超え，樹勢低下による収量減が課題となっています。現在，進行中の圃場の再整備（４ha）後に導入する新たな栽培方法を確立するため，先行して平成 28 年と 29 年の２ヵ年で 44a の圃場にジョイント仕立てを導入し，現地実証をしています。

３月 17 日には、東部農業技術指導所の指導で，実証ほのせん定作業が実施されました。今後も，農業技術センター果樹研究部やこの技術を開発した神奈川県農業技術センターの協力を得て，現地実証を進めていきます。

【先進地の完成樹形：神奈川県農業技術センター】

【せん定作業の様子】

情報提供元	東部農業技術指導所